

海外子会社管理のための グローバル・キャッシュ・マネジメント講座

ーキャッシュマネジメント導入のための基礎から応用の検討ポイントー

■ 日 時 ■ 2014年 8月1日(金) 13:00 ~ 17:00

■ 会 場 ■ 東京・麹町 企業研究会「セミナールーム」

■ 講 師 ■ 大田 研一氏 日本CFO協会 主任研究委員

元 山口大学大学院技術経営研究科教授 元 日本電気(株)財務部長

【ご経歴】

1971年、一橋大学社会学部卒業。同年日本電気(株)入社。1980年より通算で12年間の米国勤務の間、CMSの構築、金融子会社設立の企画及び実行責任者を務める。1999年から2000年まで当時のチェースマンハッタン銀行のトレジャリーマネジメント・インターナショナルコミッティーのメンバー。2001年から投資銀行、ベンチャー企業、戦略コンサルティング会社、財務研修講師等を経験し、2005年に山口大学専門職大学院(MOT)教授、並びに上場企業2社の社外監査役に就任。2008年に(株)アコーディア・ゴルフの取締役常務執行役員(CFO)に就任。2010年退任。2014年4月から茨城キリスト教大学経営学部兼任講師。投資信託銀行ポートフォリアの社外取締役を務める傍ら、個人で財務コンサルティング及び研修業務に従事している。明快で懇切丁寧な語り口で好評。

【開催に当たり】

2000年3月期の連結会計の導入は、日本企業にキャッシュマネジメントの必要性を認識させ、その後のキャッシュマネジメントシステム(CMS)導入ブームを招きました。しかし、その内容は資金の集中にとどまるケースも多く、欧米の企業に比較して財務管理機能あるいは人材の育成の面で大きく立ち遅れている状況にあります。

しかし、近年では内需型企業と考えられていた日本企業までもが、アジア地域を中心に海外進出を積極化し、中には企業買収による海外進出も事業戦略として採用するケースも出てきています。こうした状況下では、キャッシュマネジメントあるいはトレジャリーマネジメントを連結経営のインフラとして国内中心に運用するだけでなく、海外子会社も対象とした経営インフラとして再構築を検討する必要が出てきています。本セミナーは、国内でのキャッシュマネジメントの目的、役割そして手法等基礎的な知識から近年注目をされているグローバル・キャッシュ・マネジメントの導入検討に当たり重要なポイントを網羅するように構成したものです。海外展開を行う上でキャッシュマネジメントによる子会社管理のプロジェクト推進の一翼を担う財務・経理スタッフ、海外事業スタッフ、事業企画スタッフ等幅広い層の参加を期待します。

★当日、サブテキストとして『キャッシュマネジメント入門』講師他共著 東洋経済新報社 2013年9月刊
定価(3,456円)を配布します。

●参加要領●

受講料：1名(資料・サブテキスト含む)

| | | |
|-----|---------|--------------|
| 正会員 | 32,400円 | 本体価格 30,000円 |
| 一般 | 35,640円 | 本体価格 33,000円 |

申込書に所定事項ご記入の上、下記宛てに FAX
または E-mailにてお送りください。

後日、受講票・請求書他をお送り致します。

※お申込後のキャンセルは原則としてお受けしかねますので、代理の方のご出席をお願い致します。

●最少催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきます。ご了承ください。

■申込先：一般社団法人 企業研究会

〒102-0083

千代田区麹町5-7-2 担当/居代

E-mail:ishiro@bri.or.jp

TEL 03-5215-3516

FAX 03-5215-0951

会員企業のご確認、その他セミナーに関するご不明な点につきましては、当会ホームページより
[TOP] → [公開セミナー] → [よくあるご質問] をご参照下さい。http://www.bri.or.jp

| | | | |
|-------------|------|---------------------------------|--|
| 141361-0609 | | 2014年 8/1 グローバル・キャッシュ・マネジメント 講座 | |
| 会社名 | | | |
| 住所 | 〒 - | | |
| TEL: | FAX: | | |
| 部課 役職 | | フリガナ | |
| | | お名前 | |
| e-mail | | | |
| 部課 役職 | | フリガナ | |
| | | お名前 | |
| e-mail | | | |

13:00

1. キャッシュマネジメントの役割と目的

- ①キャッシュマネジメントとは何か？
- ②キャッシュマネジメントとCMS
- ③グループ・キャッシュマネジメントの4つの目的

2. 連結経営とキャッシュマネジメント

- ①連結経営とインハウスバンク {企業内銀行}
- ②インハウスバンクと金融子会社
- ③シェアードサービスセンター(SSC)

2. CMS導入の課題

- ①社内コンセンサス
- ②銀行取引政策
- ③社内システムとの連動とメリットの数値化

3. CMSの提供する機能 (サービス)

15:00

休憩

15:15

- ①資金プーリング
- ②支払代行
- ③債権債務のネットィング

4. 導入事例紹介

- ① NEC
- ②日産自動車
- ③その他

5. グローバル・キャッシュ・マネジメントの導入ポイント

- ①国内のCMSとグローバルCMS、何が違うのか？
- ②為替リスクマネジメントの手法 (ネットィング、ラインボイス)
- ③国際決済システム
- ④資金が使えるタイミング
- ⑤米国・欧州のCMSモデル
- ⑥最大の課題：アジアのキャッシュマネジメントの難しさ
- ⑦銀行の選択：取引重視か、機能・サービス重視か
- ⑧CMSとTMS：財務機能の高度化(クラウドのインパクト)
- ⑨企業の特性に合った銀行とシステムの選択

7. まとめ

＜質疑応答＞ 個別のご質問ご相談にも対応いたします。

＜前回 (2014年3/5) 開催時の受講者の声＞

●実体験に基づくお話だったのでわかりやすかったです。具体的な導入例というところを知りたかったので、その話を聞いて良かったです。アセアン地域が特に興味ある所です。でもとりあえず、残高をみるという方法をとることになりそうです。[金属製品・財務経理部]

17:00

終了

●聞きたい内容は概ね網羅されていました。大変参考になりました。テンポがよく眠くならない講義でした。
[エネルギー・財務経理部]